

鵜川河口干潟で鵜川高校のカリキュラム「むかわ学Ⅰ」をサポートしました！

治水課、苫小牧河川事務所

鵜川高校は、地域の自然環境や歴史を学び、地域の課題の発見や解決能力を身につけることなどを目的として、平成29年度から学校設定科目として新たに「むかわ学」を導入しています。その一つである「むかわの自然環境」では、鵜川河口干潟をテーマに、河口干潟の保全・再生に関する様々な活動を実施している「ネイチャー研究会in むかわ」がパネルディスカッションに参加しています。

令和元年7月23日（火）は、7月10日（水）のパネルディスカッションに続いて巡検（フィールドワーク）が行われました。室蘭開発建設部では、鵜川の概要や洪水、干潟河口などの話や、河川協力団体「ネイチャー研究会in むかわ」とともに、渡り鳥の餌となる干潟にすむゴカイ調査や水質調査をサポートしました。当日は風が強く、あいにく小雨の中での現地体験となりましたが、鵜川高校1年生54人は、人工干潟で泥まみれになりながらゴカイを探したり、水質パックテストで鵜川と干潟内の水質の違いなどを調べ、干潟の重要性を学びました。今後は巡検で得た知識や体験などを基に、さらに学びを深めていくとのことでした。

室蘭開発建設部は、地域を支える子供たちに向けて、地域の財産である自然豊かな鵜川を理解し大切にすることや、川を守る活動の大切さなどを伝え、理解を深めもらうことと、地域づくりの人材育成につながるよう取り組んでいます。

実施位置（鵜川河口）



ゴカイ調査



色が変わってきた!

水質調査



見えました!



「野鳥の話」



「ゴカイの話」

「鵜川の話」